

I. ボランティアセンター活用実態 (2022年4月～)

1. 学外ボランティア情報の提供

(1) 学外登録団体数 ※ () 内は 21 年度のデータ

登録団体の総数	116 (157)
2022 年度の新規登録	27 (4)
2021 年度からの継続登録	89 (153)

(2) ボランティア募集情報 ※ () 内は 21 年度のデータ

ボランティア募集情報の総数	90 (38)
---------------	---------

(3) 2022 年度：学生ボランティアの受け入れに関するアンケート結果 (n=46)

当センターに登録していただいている学外団体を対象に、2022 年 12 月末～2023 年 2 月にかけて、アンケート調査を実施。立教大学の学生の受入状況や活動実態、当センターへの要望などを把握した。

- ① 2022 年度における立教大学の学生ボランティア受け入れ実態 (n=46)
 「受け入れた (=10) 」 「申込みがなかった (=24) 」 「募集しなかった (=10) 」
 「その他：申込みがあり進行中 (=1) 、所属大学名のデータがないため不明 (=1) 」

② 学生ボランティアの活動状況 ※立教生を受け入れた団体のみ回答 (n=10)

本学で募集した内容	人数	活動に参加した立教大生の「よかった点」
土曜学習部学習支援、授業補助支援	1 人	性格もよく、継続して支援をしてくださり、受験生である 3 年生も任せられる存在です。
国際ワークキャンプ	7 人	
広報・ファンドレイジング ボランティア	1 人	積極的に活動に参加してくれた。海外支援に興味があるようだったが、国内災害被災者支援にも関わってくれて、現地でのボランティアにも参加してくれた。
森づくり体験プログラム 援農体験プログラム	3 人	とても楽しく活動をしてもらった。
学習支援ボランティア	57 人	子ども目線で優しく接することができる。こちらのお願いや意図を汲み取って活動して下さる。マナーや言葉遣いがしっかりしている。
学習支援、居場所支援ボランティア	9 人 ※新規	目的をもって子どもたちに向き合う姿勢が見られ、頼もしかった。
多世代の居場所支援	3 人	感じの良い学生さんたちでお手伝いも積極的に参加してくださいました。同じボランティアさんとも仲良くなり学生さんが来てくれる日は、明るい雰囲気になるのでとてもありがたいです。
子どもたちと自然の中で活動する キャンプリーダー	3 人	誠実に活動に参加してくれました。
子どもの放課後居場所づくり事業	10 人	サークルとして参加していただいた。代表の方が窓口になっていただくことで、複数名の学生にボランティア活動していただくことができた。
障害者スポーツ大会 ボランティア	30 人	積極的に活動して下さった。

③ 「申込みがなかった」団体からの要望 (=24)

(継続してほしいこと)

- ・ 例年いただける更新のメールが非常に助かっている。ぜひ次年度以降も継続をお願いしたい。
- ・ 引き続き、情報の周知や活動に関心がありそうな学生への紹介をお願いしたい。
- ・ 地域連携の強化 (地域で活動する団体と連携強化) 。

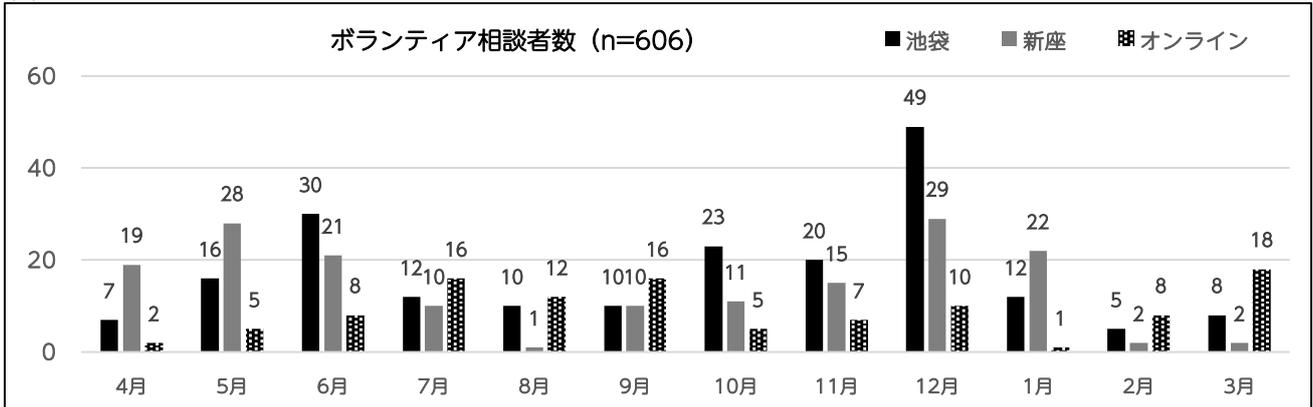
(当センターへの要望)

- ・ 数学や英語等を教えてくださるボランティアがいるとありがたい。
- ・ 立教ボランティアグループとの活動連携が強く結ばれる機会の提供を希望する。

2. ボランティア相談対応の実態 ※集計期間：2022.04.18～2023.03.31

～ボランティア相談として記録しているもの～
 ボランティア相談は、「ボランティア相談票」を用いるようなやりとり、ボランティアセンターやボランティア活動に関するセンターの判断やアドバイスが必要なやりとりをした件（人）数を示す。

(1) ボランティア相談者の総数



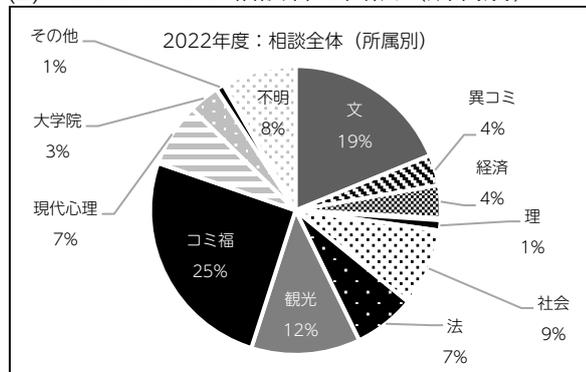
「ボランティア相談者の総数 (=606人)」

= 「学生 (=437人)」 + 「教職員 (=16人)」 + 「地域 (=153人)」

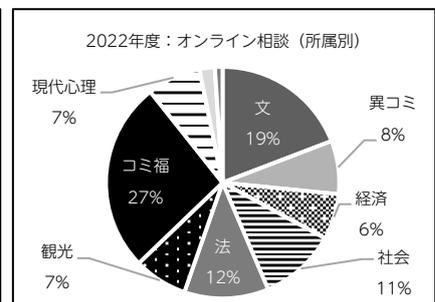
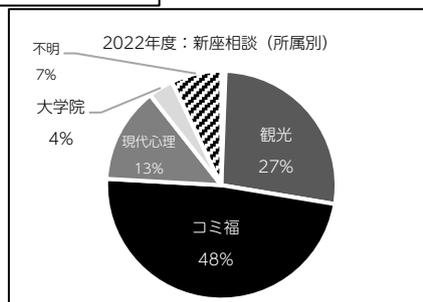
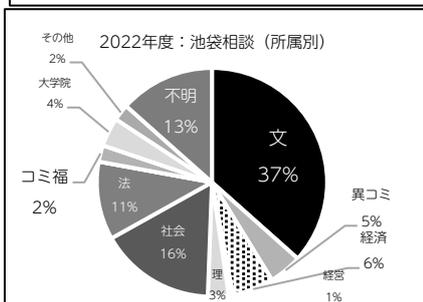
- ・ 12月 (=98) が最多で、6月 (=73)、5月・11月 (=58) と続いた。
- ・ 12月は、夏頃からスタートした「バリアフリープロジェクト」「学生コーディネーター」などの活動が本格化し、企画に伴う打合せが活発に行われていたこと、11月に開催された大学祭を機に幹部交代を行った「学生サークル」による新たな幹部学生を中心とした企画の相談が増えたことなどから相談者数が多くなった。
- ・ 相談方法については、特に学生からの相談において各キャンパスのボランティアセンターに来室しての相談が最も多かった。長期休暇（夏休み、春休みなど）の期間は、オンラインの相談が増え、メール相談から始まり Zoom ミーティングで具体的な相談対応を行うような事例が多かった。
- ・ 「電話相談」の大半は地域の方からの相談だったが、今年度から当センターでのボランティア情報紹介が再開されたことで、ボランティア募集に関する相談が多く寄せられた。

相談方法	
来室相談	357
メール相談	153
電話相談	63
Zoom	31
その他	2

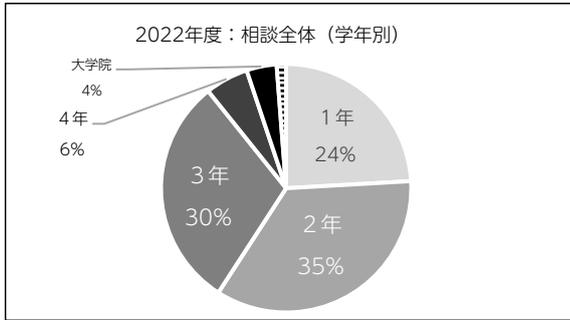
(2) ボランティア相談者の内訳 (所属別)



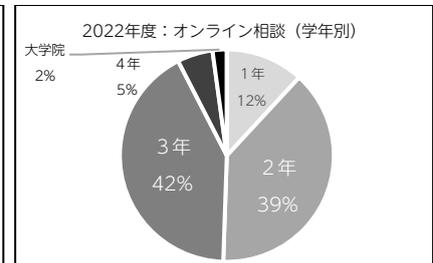
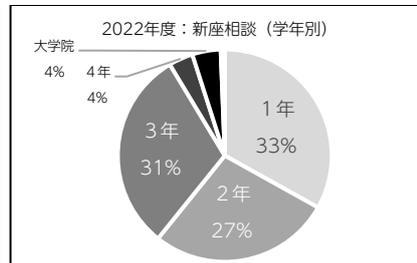
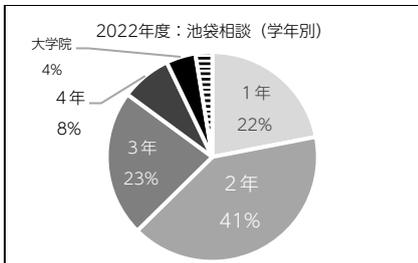
- ・ 学部別で見ると、「コミュニティ福祉学部」「文学部」「観光学部」の順に多く、特に新座キャンパスに通う学生の相談が多かった。
- ・ 池袋は「文学部」、新座は「コミュニティ福祉学部」が他学部を大きく離して割合が大きかった。



(3) ボランティア相談者の内訳（学年別）



- ・ 学年別では、「2年生」「3年生」「1年生」の順で割合が大きくなった。
- ・ キャンパスごとに見ると、池袋では「2年生」の割合が最も大きく、新座では「3年生」の割合が大きいという違いが見られた。活動拠点になっており、活動内容に関する相談が多い池袋と、個人での新規相談が多い新座でそれぞれの特徴が現れている。



(4) 学生の関心分野（ボランティア相談シートの記入情報から）

「ボランティア相談」の際は、基本的に「ボランティア相談票」を用いて対応する。時間の制限などがあり、「ボランティア相談票」を用いない簡易的な対応をする場合もあるが、相談票の設問に回答することで学生自身が自分のやりたいことを見つけたり、地域の方がその要望を伝えたりしやすいようにしている。

ボランティア相談は、主に「1. ボランティア活動をしたい」「2. 活動上の相談」「3. ボランティアを募集したい」「4. 協力依頼」の4項目である。

活動分野	割合 (n=110)
子ども	17.8% (74)
国際交流・国際協力	8.9% (37)
まちづくり	8.2% (34)
環境保全	6.7% (28)
農山漁村・中山間地域の振興	6.5% (27)
しょうがい	6.5% (27)

「1. ボランティア活動をしたい」に回答した相談者の内、「希望する分野」のチェックリストの回答から、学生の関心が高い活動分野を抽出したところ、「子ども」分野に関する関心が高く、子ども食堂や学習支援などのボランティア募集情報を求めている方が多かった。

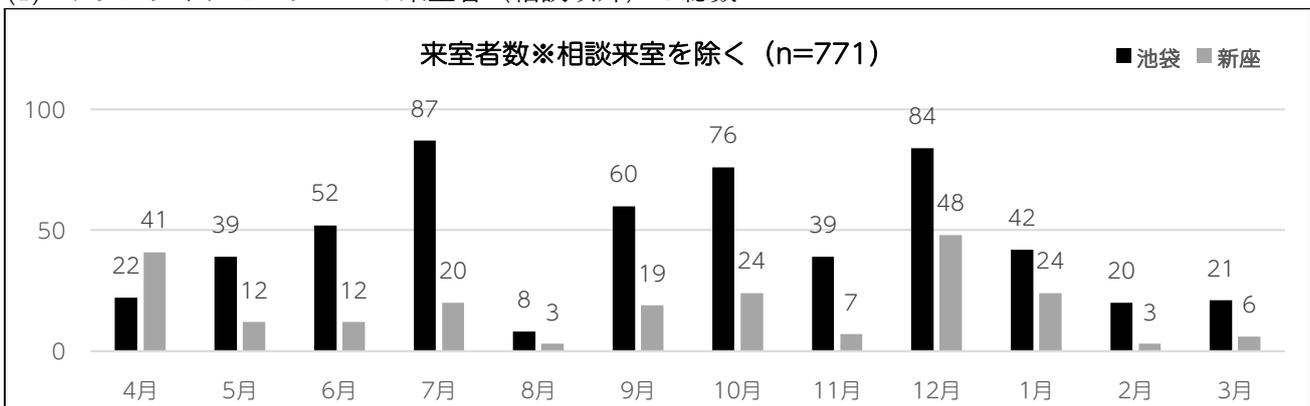
また、海外への渡航条件も緩和されたことから「国際交流・国際協力」への関心も高かった。

3. ボランティアセンターへの来室実態 ※集計期間：2022.04.18～2023.03.31

～ボランティア相談を除いた来室者数として記録しているもの～

チラシ閲覧のみで相談のない方、ボランティア活動以外の相談で来室した方、ミーティング場所としての利用、鍵の受け渡し・イベント申し込みなどの事務的なやりとり等で訪れた方の総数を示す。

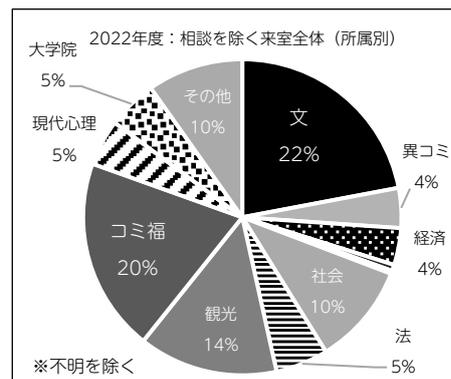
(1) ボランティアセンターへの来室者（相談以外）の総数



「来室相談者 (=357人)」 + 「相談を除く来室者 (=771人)」
 = 「ボランティアセンター来室者の総数 (=1,128人)」

来室者総数 (キャンパス別)	
池袋	728人
新座	400人

- ・ ボランティアセンターへの来室者については、目的別に「ボランティア相談 (※2. ボランティア相談対応の実態で集計)」 「ボランティア相談以外」の2つに分けて集計した。
- ・ 特に池袋は、エコキャップ回収に関連する作業やセンター内での打合せ、イベント開催など、相談以外の目的でも多くの学生が来室した。
- ・ 新座では、月によって変動が大きい。長期休暇期間は、新座に通う学生でも、住んでいる場所や交通費の関係から池袋に来室する傾向があった。



4. 広報メディアの登録者数・アクセス数 ※2023.03.31時点 ※ ()内は21年度のデータ

(1) メールマガジン

登録者の総数	4,011人 (3,948人)
2022年度の新規登録者数	63人 (93人)
2021年度からの継続登録者数	3,948人 (不明)
配信メール数	11 (13)

- ・ 月1回のペースで発行しており、12月からは月初発行とした (不定期の臨時号有り)。
- ・ 11月号からは、公式noteでメールマガジン記事を公開し、そのコンテンツ一覧をメールで配信する形式にリニューアルした。

(2) Twitter (2011.04~)

登録者の総数	2,916人 (2,624人)
2022年度の新規登録者数	193人 (93人)
2022年の投稿数	78 (81)

- ・ 2022年度は月平均6回以上投稿。
- ・ イベント案内に加えて、「RIKKYO TRIVIA」など、立教大学を身近に感じられるようなコンテンツも取り上げて発信した。
- ・ 登録者数は前年度比で、237人増加。

(3) Instagram (2019.04~)

登録者の総数	268人 (203人)
2022年の投稿数	56 (76)

- ・ 2022年度は月平均4回以上投稿。
- ・ 画像をベースにした投稿を行った。

(4) note (2022.11~)

登録者の総数	6人 (なし)
2022年度の総ビュー	2,997 (なし)
2022年度の新規公開記事数	20 (なし)

- ・ 実施した活動の詳細を伝えることで、ボランティア活動を選択する際の参考にできるように、今年度から開設した。
- ・ メールマガジン記事も公開している。

(5) YouTube (2022.10~)

登録者の総数	1人 (なし)
2022年度の総視聴回数	200 (なし)
2022年度の新規公開動画数	4 (なし)

- ・ 実施した説明会の内容やイベントの様子をより多くの人に伝えられるように、今年度開設した。
- ・ アーカイブ動画を中心に公開を開始。

※公開動画の内、1本は限定公開